

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-031980

(43)Date of publication of application : 28.01.2000

(51)Int.Cl.

H04L 12/28

G06F 13/00

H04Q 7/38

H04L 9/36

(21)Application number : 10-195484

(71)Applicant : KOKUSAI ELECTRIC CO LTD  
NIPPON TELEGR & TELEPH CORP <NTT>

(22)Date of filing : 10.07.1998

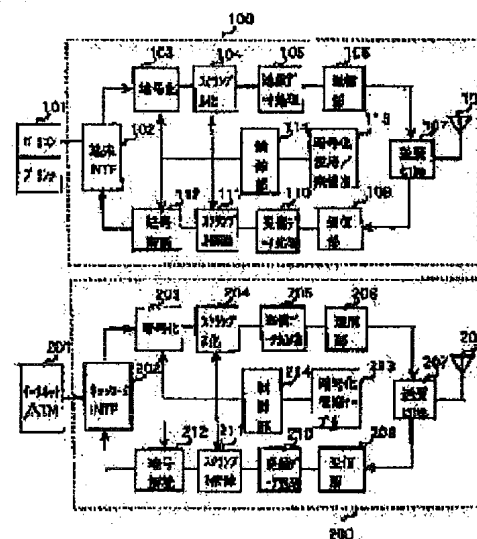
(72)Inventor : MURAKAMI HIROYUKI  
OKINO EMI  
MIURA SHUNJI  
SUZUKI YOSHIFUMI

(54) RADIO LAN SYSTEM AND ENCIPHERING METHOD THEREFOR

(57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To prevent the processing of data not to be enciphered from being delayed and to enable communication without causing any unpleasantness due to processing delay by providing an encryption use/unuse selecting part for selecting the use/unuse of encryption by a user, providing a master station with a management table for managing a slave station and enciphering only data to be enciphered.

**SOLUTION:** A slave station control part 114 operates a slave station transmission data encryption processing part 103 and enciphers input data when an encryption use/unuse selecting part 113 selects encryption use. A slave station transmission data scrambling processing part 104 makes the enciphered input data random, a slave station transmission data processing part 105 makes it a packet and a slave station transmitting part 106 performs radio modulation of it. When a signal showing that encryption processing is performed is included in a received signal, a master station controlling part 214 registers that the terminal selects encryption with an encryption management table 213 and a master station received data encryption decoding processing part 212 performs encryption decoding processing.



(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-31980

(P2000-31980A)

(43) 公開日 平成12年1月28日 (2000.1.28)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	FI	テーマコード* (参考)
H04L 12/28		H04L 11/00	310B 5B089
G06F 13/00	351	G06F 13/00	351L 5J104
H04Q 7/38		H04B 7/26	109R 5K033
H04L 9/36		H04L 9/00	685 5K067

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全11頁)

(21) 出願番号 特願平10-195484

(22) 出願日 平成10年7月10日 (1998.7.10)

(71) 出願人 000001122

国際電気株式会社

東京都中野区東中野三丁目14番20号

(71) 出願人 000004226

日本電信電話株式会社

東京都千代田区大手町二丁目3番1号

(72) 発明者 村上 博行

東京都中野区東中野三丁目14番20号 国際

電気株式会社内

(74) 代理人 100093872

弁理士 高崎 芳紘

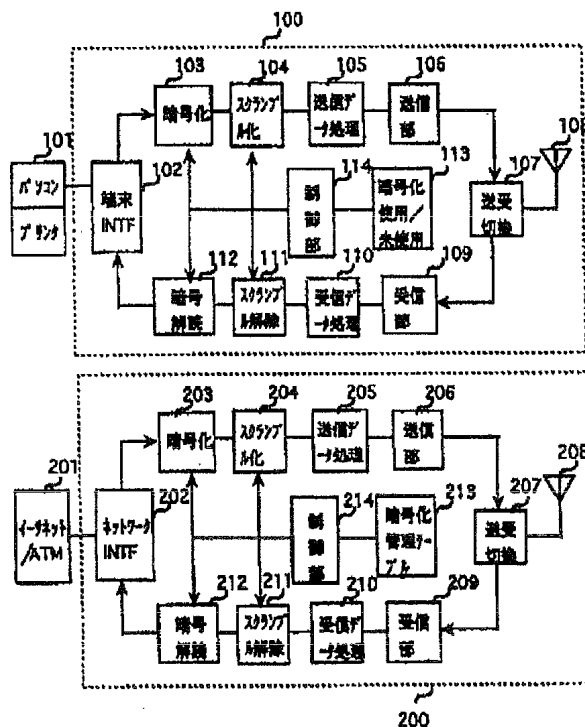
最終頁に続く

## (54) 【発明の名称】 無線LANシステムとその暗号化方法

## (57) 【要約】

【課題】 親局と複数の子局からなる無線LANシステムで、無線区間からの傍受を防ぐための暗号化を、処理時間増大のためのデータ伝送のスループットの低下、通信の遅れによる不快感をなるべく生じないようにする。

【解決手段】 子局に暗号化を行うか行わないかの選択ができるスイッチを設け、ユーザは、送信データが暗号化を必要とするデータかどうかを判断して、暗号化が必要としたデータ送信の場合にのみ、暗号化を行い、暗号化が不要と判断した場合は、暗号化を行わずにデータを送信し処理の高速化を図る。親局には、管理テーブルを設け子局が暗号化を選択したかどうかを記憶し、親局からのデータ送信は、この管理テーブルに記憶している子局の状態に従って暗号化するかどうかを定める。



#### 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ネットワークに接続されるネットワーク側の親局とその親局と無線回線で接続される複数の子局とからなる無線 LAN システムにおいて、

子局は、

少なくとも送信データの作成機能と受信データの処理表示機能を有した端末装置と、その端末装置からの送信データを暗号化するための子局暗号化手段と、送信データの暗号化を行うか否かを選択するための暗号化選択手段と、この手段により暗号化を行う選択がなされているときかつそのときのみ前記子局暗号化手段により送信データが暗号化されるように制御するための子局送信制御手段と、前記送信データまたはそれが暗号化されたデータとそのデータが暗号化されているか否かを示す子局フラグとを含む伝送データを作成して無線信号に変換し送信する子局送信手段と、親局からの無線信号を受信し受信データを取り出す子局受信手段と、前記受信データが暗号化されているときにこれを解読するための子局解読手段と、前記受信データに含まれている親局フラグが当該受信データが暗号化されていることを示しているときかつそのときのみ前記子局解読手段により当該受信データが解読されるように制御するための子局受信制御手段と、を備えており、

親局は、

管理テーブルと、子局からの無線信号を受信して受信データを取り出すための親局受信手段と、前記受信データが暗号化されているときにこれを解読するための親局解読手段と、前記受信データに含まれている子局フラグを前記管理テーブルへ子局対応に格納し、かつその子局フラグが当該受信データが暗号化されていることを示しているときかつそのときのみ前記親局解読手段により当該受信データが解読されるように制御するための親局受信制御手段と、前記受信データまたはそれが解読されたデータをネットワークへ送出しまたネットワークからの送信データを取り込むためのインターフェースと、取り込んだ送信データを暗号化するための親局暗号化手段と、前記管理テーブルの該当する子局フラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ当該送信データが前記親局暗号化手段により暗号化されるように制御するための親局送信制御手段と、前記送信データまたはそれが暗号化されたデータとそのデータが暗号化されているか否かを示す親局フラグとを含む伝送データを作成して無線信号に変換し送信する親子局送信手段と、

を備えていることを特徴とする無線 LAN システム。

【請求項 2】 ネットワークに接続されるネットワーク側の親局とその親局と無線回線で接続される複数の子局とからなり、無線回線上では少なくとも送信データを伝送するデータチャンネルと、子局から親局にデータの送信を要求する要求チャンネルと、親局から子局にデータチャンネルでの送信を指示する許可チャンネルを含む伝送フレー

ム構成を有した無線 LAN システムの暗号化方法であって、

ユーザが暗号化の使用／未使用を選択するための暗号化使用／未使用選択部を、親局に子局を管理するための管理テーブルを設けるとともに、

子局から親局へデータ送信する場合、

前記暗号化使用／未使用選択部を見て暗号化使用／未使用を示すフラグを前記要求チャンネルに含めて親局へ送信し、

前記要求チャンネルを受信した親局では受信した要求チャンネルのフラグを前記管理テーブルに当該子局対応で格納し、さらに前記許可チャンネルで当該子局へ前記格納したのと同じフラグを含めた許可信号を送信し、

前記許可チャンネルで自局への信号を受信した子局では、受信した許可チャンネルに含まれているフラグを見て、このフラグが暗号化を示していれば送信データを暗号化したのちそのデータと暗号化を示すフラグとを前記データチャンネルで親局へ送信し、前記フラグが暗号化を示していなければ送信データを暗号化せずにそのまま暗号化していないことを示すフラグとともに前記データチャンネルで親局に送信し、

前記データチャンネルを受信した親局では、その中に含まれるフラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ受信したデータの暗号化解読を行い、

親局から子局へデータを送信する場合、

前記管理テーブルの送信先子局に対応するフラグを取り出して前記許可チャンネルで許可信号とともに子局へ送信し、またそのフラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ送信データを暗号化し、暗号化を示していないときは送信データそのまま前記データチャンネルで当該子局へ送信し、

前記許可チャンネル及びデータチャンネルを受信した子局では、受信した許可チャンネルの信号に含まれているフラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ前記データチャンネルで受信したデータの暗号化解読を行う、

ようにしたことを特徴とする無線 LAN システムの暗号化方法。

#### 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、無線 LAN システムとその暗号化方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来の無線 LAN システムのシステム構成図を図 2 に示す。図 2 でネットワーク親局装置（単に親局と称す）と、端末側子局装置（単に子局と称す）との間には無線で結ばれ、送受信データはパケット化されている。通常、送受信データにはスクランブル化が施されているが、暗号化は行われていない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、現代において

は、携帯電話に代表されるように無線区間から傍受する犯罪が多くなり、送受信データの暗号化が望まれている。暗号化方式としては、暗号化キーをユーザごとに割り当て、暗号化／解読処理を行うDESやFEALなどが望ましいが、これらの暗号化方式は、処理時間がかかる等の問題がある。このような処理時間がかかる暗号化方式で秘匿する必要がないデータまで暗号化すると、データ伝送のスループットが低下するとともに、通信の遅れで不快感が生ずるという欠点があった。

【0004】本発明の目的は、暗号化キーによる暗号化を行う場合、処理時間が掛かり、秘匿する必要のないデータまで暗号化し、スループットが低下するという欠点を解決し、秘匿する必要のあるデータのみをユーザが指定して暗号化するようにした無線LANシステムとその暗号化方法を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために本発明は、ネットワークに接続されるネットワーク側の親局とその親局と無線回線で接続される複数の子局とからなる無線LANシステムにおいて、子局は、少なくとも送信データの作成機能と受信データの処理表示機能を有した端末装置と、その端末装置からの送信データを暗号化するための子局暗号化手段と、送信データの暗号化を行うか否かを選択するための暗号化選択手段と、この手段により暗号化を行う選択がなされているときかつそのときのみ前記子局暗号化手段により送信データが暗号化されるように制御するための子局送信制御手段と、前記送信データまたはそれが暗号化されたデータとそのデータが暗号化されているか否かを示す子局フラグとを含む伝送データを作成して無線信号に変換し送信する子局送信手段と、親局からの無線信号を受信し受信データを取り出す子局受信手段と、前記受信データが暗号化されているときにこれを解読するための子局解読手段と、前記受信データに含まれている親局フラグが当該受信データが暗号化されていることを示しているときかつそのときのみ前記子局解読手段により当該受信データが解読されるように制御するための子局受信制御手段と、を備えており、親局は、管理テーブルと、子局からの無線信号を受信して受信データを取り出すための親局受信手段と、前記受信データが暗号化されているときにこれを解読するための親局解読手段と、前記受信データに含まれている子局フラグを前記管理テーブルへ子局対応に格納し、かつその子局フラグが当該受信データが暗号化されていることを示しているときかつそのときのみ前記親局解読手段により当該受信データが解読されるように制御するための親局受信制御手段と、前記受信データまたはそれが解読されたデータをネットワークへ送出したネットワークからの送信データを取り込むためのインターフェースと、取り込んだ送信データを暗号化するための親局暗号化手段と、前記管理テーブルの該当する子

局フラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ当該送信データが前記親局暗号化手段により暗号化されるように制御するための親局送信制御手段と、前記送信データまたはそれが暗号化されたデータとそのデータが暗号化されているか否かを示す親局フラグとを含む伝送データを作成して無線信号に変換し送信する親局送信手段と、を備えていることを特徴とする無線LANシステムを提供する。

【0006】また、本発明は、ネットワークに接続されるネットワーク側の親局とその親局と無線回線で接続される複数の子局とからなり、無線回線上では少なくとも送信データを伝送するデータチャンネルと、子局から親局にデータの送信を要求する要求チャンネルと、親局から子局にデータチャンネルでの送信を指示する許可チャンネルを含む伝送フレーム構成を有した無線LANシステムの暗号化方法であって、ユーザが暗号化の使用／未使用を選択するための暗号化使用／未使用選択部を、親局に子局を管理するための管理テーブルを設けるとともに、子局から親局へデータ送信する場合、前記暗号化使用／未使用選択部を見て暗号化使用／未使用を示すフラグを前記要求チャンネルに含めて親局へ送信し、前記要求チャンネルを受信した親局では受信した要求チャンネルのフラグを前記管理テーブルに当該子局対応で格納し、さらに前記許可チャンネルで当該子局へ前記格納したのと同じフラグを含めた許可信号を送信し、前記許可チャンネルで自局への信号を受信した子局では、受信した許可チャンネルに含まれているフラグを見て、このフラグが暗号化を示しているならば送信データを暗号化したのちそのデータと暗号化を示すフラグとを前記データチャンネルで親局へ送信し、前記フラグが暗号化を示していなければ送信データを暗号化せずにそのまま暗号化していないことを示すフラグとともに前記データチャンネルで親局に送信し、前記データチャンネルを受信した親局では、その中に含まれるフラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ受信したデータの暗号化解読を行い、親局から子局へデータを送信する場合、前記管理テーブルの送信先子局に対応するフラグを取り出して前記許可チャンネルで許可信号とともに子局へ送信し、またそのフラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ送信データを暗号化し、暗号化を示していないときは送信データそのまま前記データチャンネルで当該子局へ送信し、前記許可チャンネル及びデータチャンネルを受信した子局では、受信した許可チャンネルの信号に含まれているフラグが暗号化を示しているときかつそのときのみ前記データチャンネルで受信したデータの暗号化解読を行う、ようにしたことを特徴とする無線LANシステムの暗号化方法を提供する。

【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を詳細に説明する。図1は、本発明になる無線LANシステムの構成例を示すブロック図である。この図により構成と

概略動作を説明すると、端末側子局装置100には、パソコンとプリンタからなる入出力装置101が接続され、パソコンからの入力データが端末インタフェース102を経由し、子局送信データ暗号化処理部103に送られる。子局制御部114は、暗号化使用／未使用選択部113で暗号化使用が選択されていると、子局送信データ暗号化処理部103を動作させ、入力データを暗号化する。暗号化の方法としては、自局に割り当てられた暗号化キーを用いてDESやFEALにより暗号化する。ここで、暗号化使用／未使用選択部113は、コードレス電話機などに設けられているスクランブル選択スイッチと同様な暗号化スイッチを設けることで容易に実現できる。さて、暗号化された入力データは、暗号化されたことを示す信号を子局制御部114から付加されて子局送信データスクランブル化処理部104に送られる。子局送信データスクランブル化処理部104では、あらかじめ定められたパターンの符号で暗号化された入力データがランダム化され、子局送信データ処理部105でパケット化され、子局送信部106で無線変調される。無線変調された信号は、子局受信切り換えスイッチ107から、子局アンテナ108に送られ無線電波として送出される。また、暗号化使用／未使用選択部113で暗号化未使用が選択されているときは、入力データは暗号化されず、そのままスクランブル以下の処理を受けて送出される。

【0008】子局アンテナ108から送出された無線電波は、ネットワーク側親局装置200の親局アンテナ208で受信され、親局送受信切り換えスイッチ207で親局受信部209に送られ、復調される。復調出力は親局受信データ処理部210でパケットの解体処理が行われ、親局受信データスクランブル解除処理部211で、子局送信データスクランブル化処理部104でスクランブル化したのと同じパターンの符号によりスクランブルが解除される。スクランブルを解除された信号は、親局受信データ暗号化解読処理部212に送られる。親局制御部214は、受信した信号に暗号化処理を行ったことを示す信号が含まれていると、暗号化管理テーブル213にその端末が暗号化を選択していることを登録し、あらかじめ用意されている当該端末の暗号解読キーを抽出し、親局受信データ暗号化解読処理部212で暗号化解読処理を行って通常のデータを取り出し、ネットワークインタフェース202を経由し、イーサネット（登録商標）あるいはATMのネットワーク201に送出する。また、受信した信号に暗号化処理を行ったことを示す信号が含まれていないときは、暗号化管理テーブル213にその端末が暗号化を選択していないことを登録し、親局受信データ暗号化解読処理部212で暗号化解読処理を行わずに、スクランブルを解除したデータをネットワークインタフェース202を経由し、ネットワーク201に送出する。

【0009】ネットワーク側親局装置200からデータを送信する場合は、ネットワーク201からのデータがネットワークインタフェース202を経由し、親局送信データ暗号化処理部203に送られる。親局制御部214は、送出される相手子局が、暗号化使用を選択しているかどうかを、暗号化管理テーブル213でチェックし、暗号化が選択されていると、あらかじめ用意された相手子局に割り当てられている暗号化キーを抽出し、親局送信データ暗号化処理部203を動作させ、入力データを暗号化する。暗号化されたデータには、暗号化されていることを示す信号が付加されて、親局送信データスクランブル化処理部204に送られる。親局送信データスクランブル化処理部204では、あらかじめ定められたパターンの符号でデータがランダム化され、親局送信データ処理部205でパケット化され、親局送信部206で無線変調される。無線変調された信号は、親局送受信切り換えスイッチ207から、親局アンテナ208に送られ無線電波として送出される。また、暗号化管理テーブル213上で送信相手の子局が暗号化を選択していないことが登録されていると、上記の暗号化処理は行われない。

【0010】親局アンテナ208から送出された無線電波は、子局アンテナ108で受信され、子局送受信切り換えスイッチ107で子局受信部109に送られ、復調される。復調出力は子局受信データ部105でパケットが解体処理され、子親局受信データスクランブル解除処理部111で、スクランブルが解除される。スクランブルを解除された信号は、子局受信データ暗号化解読処理部112に送られる。子局制御部114は、受信した信号に暗号化処理を行ったことを示す信号が含まれていると、自分の暗号化キーを用いて子局受信データ暗号化解読処理部112で暗号化解読処理を行い、端末インタフェース106を経由し、入出力装置101に出力する。

【0011】以下でより詳細な説明を行う。まず、無線LANによく使用される伝送フレームを図3を用いて説明する。この伝送フレームは、子局に対し親局の動作タイミングを報知し、親局から子局に対し各種制御情報を通知する報知チャネル、子局から親局に対し各種制御情報を通知する要求チャネル、親局から子局に対し通信許可を通知し、親局から子局に対し各種制御情報を通知する許可チャネル、親局から特定の子局に対し、または、特定の子局から親局に対しデータを送信するデータチャネル、データ信号の受信に対する応答としてACK/NACKを送信する受信確認チャネルの各チャネルから構成されている。このフレーム構成で、子局は、送信データが発生すると、親局にたいし、要求チャネルで送信許可を求め、親局は許可チャネルで子局に通信を許可し、使用するデータチャネルの番号を指定する。そして子局は指定されたデータチャネルでデータを送信するというプロトコルで通信を行っている。また、親局からの送信

は、子局に、許可チャンネルを介してこれからデータを送ることを伝え、使用するデータチャンネルを指示し、子局は指示されたデータチャンネルでデータを受信する。ここでは、要求チャンネルと許可チャンネルはそれぞれ1チャンネルしかないと仮定する。また各チャンネルの先頭には、図3に示すように、ガードタイム、ビット同期信号、フレーム同期信号、識別信号、チャンネル情報、暗号化情報等からなるヘッダを含んでいる。

【0012】上記の伝送フレーム構成で、暗号化が選択されているときに暗号化の対象となるのはデータチャンネルのヘッダを除いたデータ部のみであり、一方、スクランブルは各チャンネルとも、ヘッダ内のチャンネル情報、暗号化情報等とそれに続く情報が対象となる。そして、子局側で暗号化を選択しているか否か、親局の暗号管理テーブルで暗号化が登録されているかを各送信時に相手局へ伝えるために、要求チャンネル、許可チャンネル、データチャンネルの先頭部に暗号化あり／なしの暗号化フラグを暗号化情報として挿入するものとする。受信側の制御部114または214は、このフラグを見て暗号解読を行うか否かを判定する。

【0013】親局に設けられた暗号管理テーブル213は、データチャンネルで子局へデータを送信する場合には、その暗号管理テーブルから該当する子局の暗号化の情報を読みだして送信データの暗号化を行って送信するか、そのまま送信するかを決めるのに用いられるが、各子局に関する情報は、その子局に割り当てられている暗号化キーと暗号解読キーと暗号化を選択しているかどうかを示すフラグよりなる。暗号化キーは暗号化する場合に使用し、暗号解読キーは暗号解読に使用するが、暗号化の方式によっては、暗号化キーと暗号解読キーは同じものである場合もある。暗号管理テーブルで、子局が暗号化を選択しているかどうかを示す情報は、子局が送信要求時に要求チャンネルに付加した前記暗号化フラグをテーブル213へ登録したものである。すなわち、暗号化を選択したときは、暗号化フラグは例えば“1”、暗号化を選択しないときは“0”とする。

【0014】図4は、子局から親局へデータを送信する場合の、制御部114及び制御部214により実行される制御フローである。いま子局1で送信データが発生すると(STEP10)、子局1は、図1の暗号化使用／未使用選択部113を見て、暗号化スイッチが暗号化状態であるかを見る(STEP11)。すなわち、ユーザは送信データを暗号化して送信する場合には、あらかじめ、暗号化使用／未使用選択部113の暗号化スイッチをONにしておくものとする。もし暗号化スイッチがOFFなら(STEP11でNO)、図3の要求チャンネルの先頭部にあるチャンネル情報、暗号化情報等を示すエリアに暗号化フラグをたてずに、要求チャンネルを親局に送信する(STEP13)。もし暗号化スイッチがONなら(STEP11でYES)、図3の要求チャンネルの先

頭部にあるチャンネル情報、暗号化情報等を示すエリアに暗号化フラグをたて、要求チャンネルで親局に送信する

(STEP12)。要求チャンネルでデータの送信を要求した子局1は、許可チャンネルで自局宛の信号が受信されるのを待つ(STEP14でNOのループ)。

【0015】一方、親局は、要求チャンネルで子局からの信号の受信を待っていて(STEP20でNOのループ)、子局1からの要求チャンネルの信号を受信すると(STEP20でYES)、図1の暗号化管理テーブル213の子局1のエリアに要求チャンネルで送られてきた暗号化フラグの状態を書き込む(STEP22)。例えば、子局1が暗号化を選択している場合は、暗号化フラグの状態は“1”で、暗号化を選択していなければ

“0”である。もし暗号化フラグが“1”なら(STEP22でYES)、使用するデータチャンネルを指定する許可チャンネルで暗号化フラグを立てた信号を子局1に送信する(STEP23)。もし、暗号化フラグが“0”なら(STEP22でNO)、許可チャンネルで暗号化フラグをたてずに送信する(STEP24)。許可チャンネルで自局宛の信号を待っていた子局1は、親局からの許可チャンネルの信号を受信すると(STEP14でYES)、受信した許可チャンネルの信号に暗号化フラグが立っているかを見る(STEP15)。暗号化フラグが立っていれば(STEP15でYES)、図1の子局送信データ暗号化処理部103で、送信データを自局に割り当てられた暗号化キーをもとにして暗号化し(STEP16)、データチャンネルの先頭部にあるチャンネル情報、暗号化情報等を示すエリアに暗号化の状態を示すフラグを立てて、許可チャンネルで指示されたデータチャンネルで暗号化したデータを送信する(STEP17)。要求チャンネルに暗号化フラグが立っていなければ、送信データを暗号化しないで(STEP18)、データチャンネルの先頭部に暗号化フラグを立てずに送信する(STEP19)。親局からは、要求チャンネルで信号に暗号化フラグが立っていれば、許可チャンネルでも暗号化フラグを立てて送信するので、通常は、要求チャンネルで暗号化フラグを立てたのに、その応答である許可チャンネルで暗号化フラグが立っていない信号が受信されることはない。

【0016】親局では、許可チャンネルの信号で、子局1にデータ送信に使用するデータチャンネルを指定するので、親局は子局1に指定したデータチャンネルで受信を待っている(STEP25でNOのループ)。子局1からのデータを受信すると(STEP25でYES)、そのデータチャンネルの先頭部で暗号化フラグが立っているかをみて(STEP26)、フラグが立っていれば(STEP26でYES)、図1の親局受信データ暗号化解読処理部(212)で暗号解読の処理を行う(STEP27)。もし、データチャンネルの先頭部に暗号化フラグが立っていなければ(STEP26でNO)、暗号化解読処理は行わず、そのまま受信する。暗号化されたデータ

の解読は、暗号化管理テーブル213の子局1のエリアにある暗号解読キーを用いて行う。

【0017】図5は、親局から子局にデータを送信する場合に各制御部114、214で実行される制御フローである。親局で、子局1に送る送信データが発生すると(STEP31)、図1の暗号化管理テーブル213の子局1のエリアに暗号化フラグが立っているかを見る(STEP32)。暗号化フラグが立っていれば、子局1は暗号化の送受信を選択していると判断し、許可チャネルで暗号化フラグを立てて、子局1に信号を送信し(STEP33)、送信データを暗号化管理テーブル213の子局1のエリアに記憶してある暗号化キーを用いて、親局送信データ暗号化処理部203で暗号化し(STEP34)、データチャネルで、暗号化フラグを立てて、暗号化したデータを子局1に送信する(STEP35)。またもし、暗号化管理テーブル213で、子局1の暗号化フラグが立っていなければ(STEP32でNO)、暗号化フラグを立てずに許可チャネルを送信し(STEP36)、親局送信データ暗号化処理部203で暗号化せず(STEP37)、データチャネルで暗号化フラグも立てずに送信データを子局1に送信する(STEP38)。

【0018】子局は、許可チャネルで親局からの自局への送信信号を常時受信している(STEP41でNOのループ)。許可チャネルで、自局への信号が受信されたら(STEP41でYES)、許可チャネルに暗号化フラグが立っているかを見る(STEP42)。もし立っていれば(STEP42でYES)、暗号化解読の準備をして(STEP43)、データチャネルでのデータ受信を待つ(STEP44でNOのループ)。暗号化解読の準備としては、自局に割り当てられた暗号解読キーを抽出し、子局受信データ暗号化解読処理部112の駆動を準備する。データチャネルで親局からのデータが受信されたら(STEP44でYES)、子局受信データ暗号化処理部112で暗号化されたデータを解読し受信する(STEP45)。受信した許可チャネルの信号に暗号化フラグが立っていなければ(STEP42でNO)、非暗号化解読の準備をして(STEP46)、データチャネルでの受信を待つ(STEP47でNOのループ)。非暗号化解読の準備としては、子局受信データ暗号化解読処理部112の処理をスキップさせるための準備である。親局からのデータがデータチャネルで受信されたら(STEP47でYES)、子局受信データ暗号化解読処理部112の解読処理を行わずデータを受信する(STEP48)。本子局の制御フローでは、許可チャネルでの暗号化フラグで、親局からのデータの暗号化解読を行うか、行わないかを決めたが、親局から送信されるデータチャネルにも暗号化フラグが含まれているので、そのフラグで暗号化解読の操作を行うかどうかを決めてもよい。

【0019】以上、図4と図5の制御フローでは、子局1からのデータ送信と、親局から子局1に対するデータ送信について、データの暗号化が選択できる方法についてのみ説明したが、実際の送受信には、図3の伝送フレームに示すように、データ送信後には、各チャネルでの送信が正しく相手に伝わったかの受信確認チャネルでのACK/NAK信号による確認が行われ、NAKの場合にはデータの再送なども行われるが、これらの制御については説明を省略する。また、図1の構成では、子局送信データ暗号化処理部103や親局送信データ暗号化処理部203で送信データの暗号化を行った後に、子局送信データスクランブル化処理部104や親局送信データスクランブル化処理部204で、送信データのスクランブル化を行っているが、スクランブル化も一種の暗号化であり、DESやFEALなどの暗号化キーを用いた強力な暗号化を行ったあとのデータを再度スクランブル化することは、必ずしも必要ない。スクランブル化処理部のない構成も十分実用になると考えられる。

【0020】以上詳細に説明したように、本発明では、子局に暗号化を行うか行わないかの選択ができるスイッチを設け、ユーザは、送信データが暗号化を必要とするデータかどうかを判断して、暗号化が必要としたデータ送信の場合にのみ、暗号化を行い、暗号化が不要と判断した場合は、暗号化を行わずにデータを送信し処理の高速化を図る。一方、親局には、管理テーブルを設け子局が暗号化を選択したかどうかを記憶し、親局からのデータ送信は、この管理テーブルに記憶している子局の状態に従って暗号化するかどうかを定める。送信されたデータが暗号化されているかどうかは、データチャネルや許可チャネルの信号の先頭に暗号化フラグを立てるか立てないかで受信側に容易に知らせることができる。

【0021】

【発明の効果】本発明により、以下の効果がある。

- (1) 暗号化が必要なデータのみ暗号化を行うので、暗号化を行う必要のないデータの処理が遅くなることがなく、処理の遅れにともなう不快感のない通信ができる。
- (2) 暗号化を行う場合が少なくなるので、暗号方式として、処理がかかる強力な方式も採用することができ、無線区間を傍受された場合のデータの秘匿能力が高まる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明になる無線LANシステムの構成例を示すブロック図である。

【図2】無線LANシステムの説明図である。

【図3】無線LANシステムの伝送フレームの例を示す図である。

【図4】子局送信の場合の制御フローである。

【図5】親局送信の場合の制御フローである。

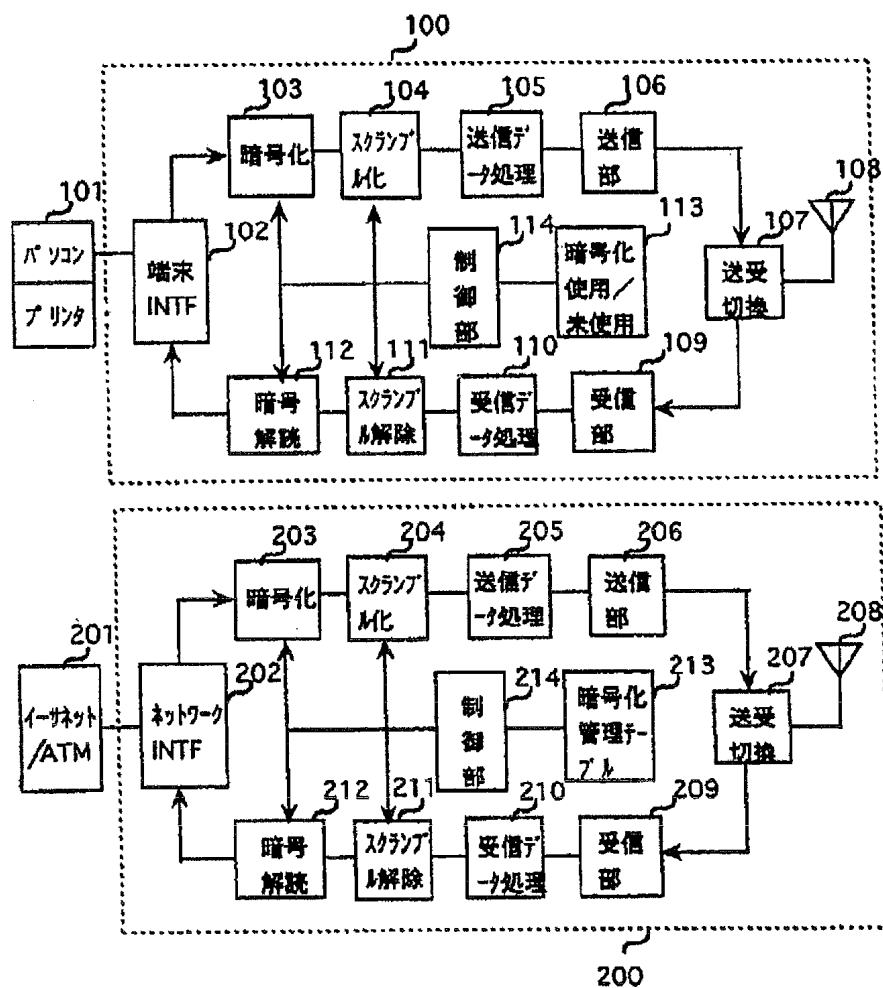
【符号の説明】

103 子局送信データ暗号化処理部

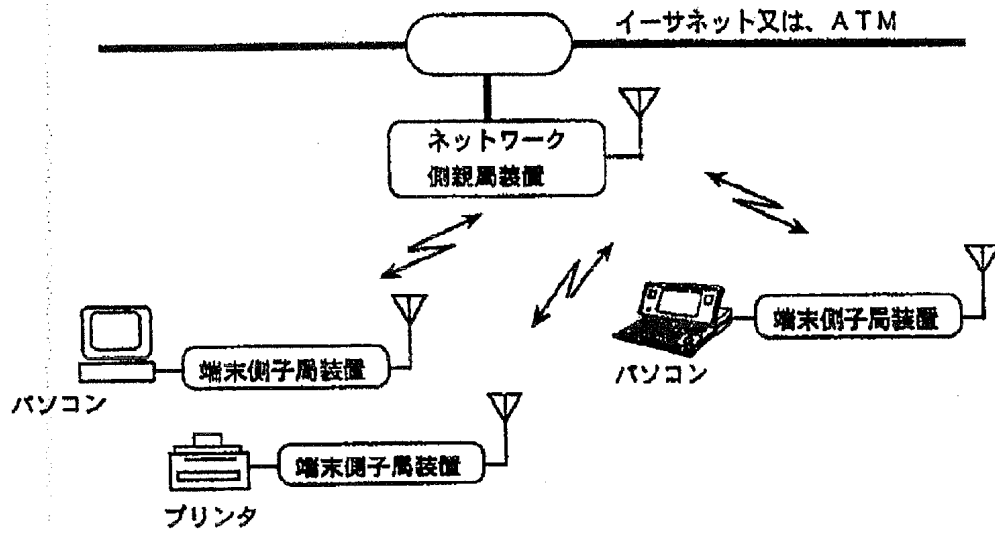
104 子局送信データスクランブル化処理部  
 105 子局送信データ処理部  
 106 子局送信部  
 109 子局受信部  
 110 子局受信データ処理部  
 111 子局受信データスクランブル解除処理部  
 112 子局受信データ暗号化解除処理部  
 113 暗号化使用／未使用選択部  
 114 子局制御部  
 202 ネットワークインタフェース

203 親局送信データ暗号化処理部  
 204 親局送信データスクランブル化処理部  
 205 親局送信データ処理部  
 206 親局送信部  
 209 親局受信部  
 210 親局受信データ処理部  
 211 親局受信データスクランブル解除処理部  
 212 親局受信データ暗号化解除処理部  
 213 暗号化管理テーブル  
 214 親局制御部

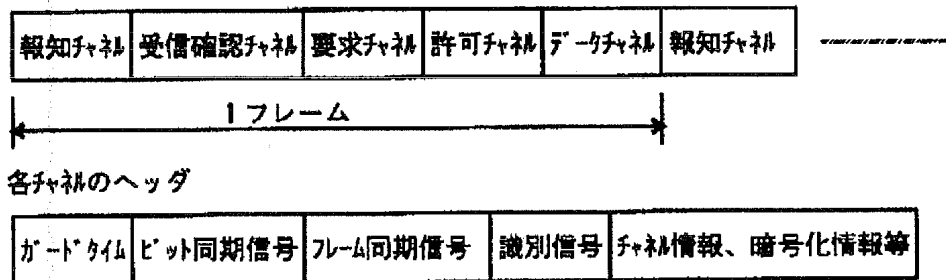
【図1】



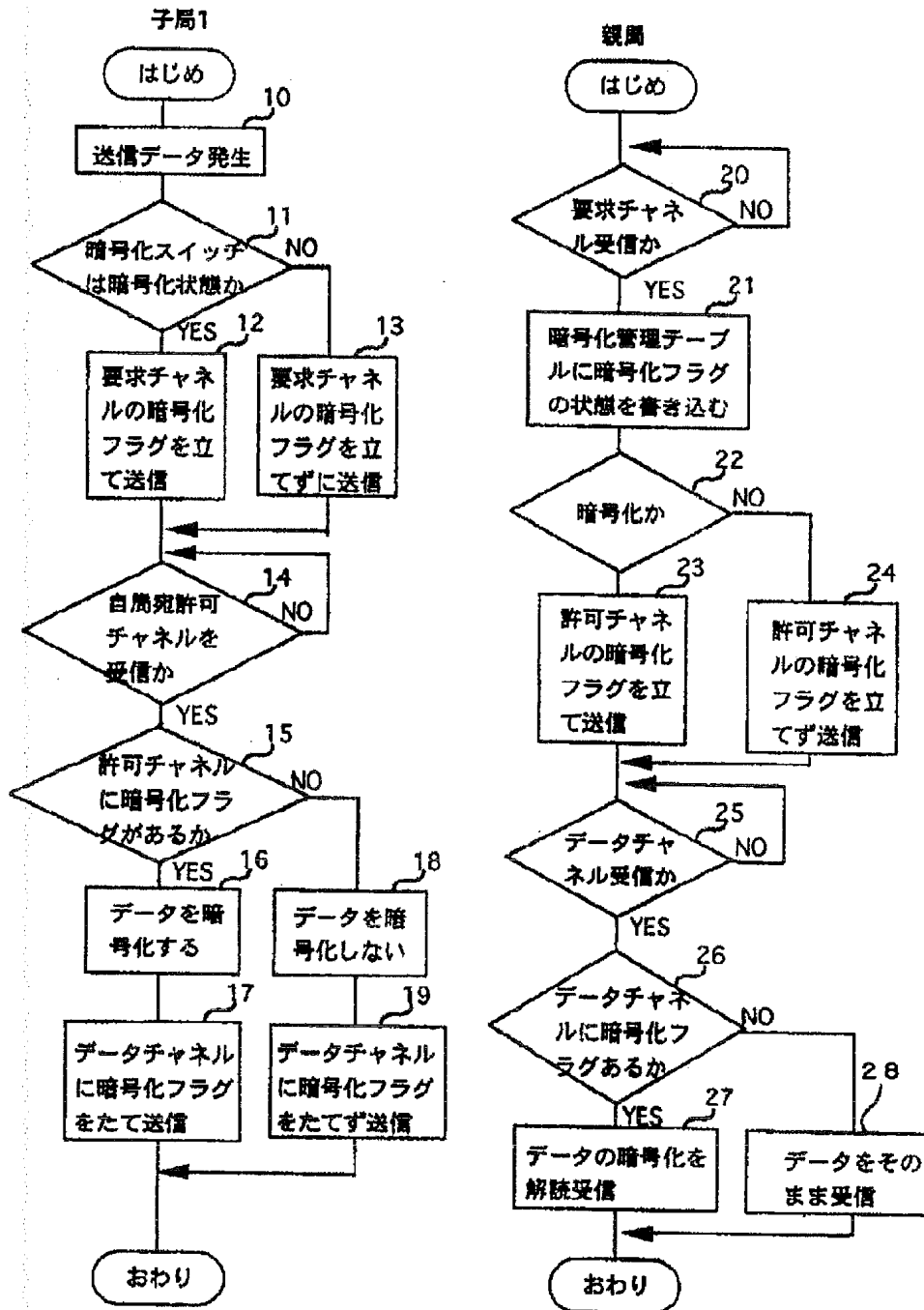
【図2】



【図3】

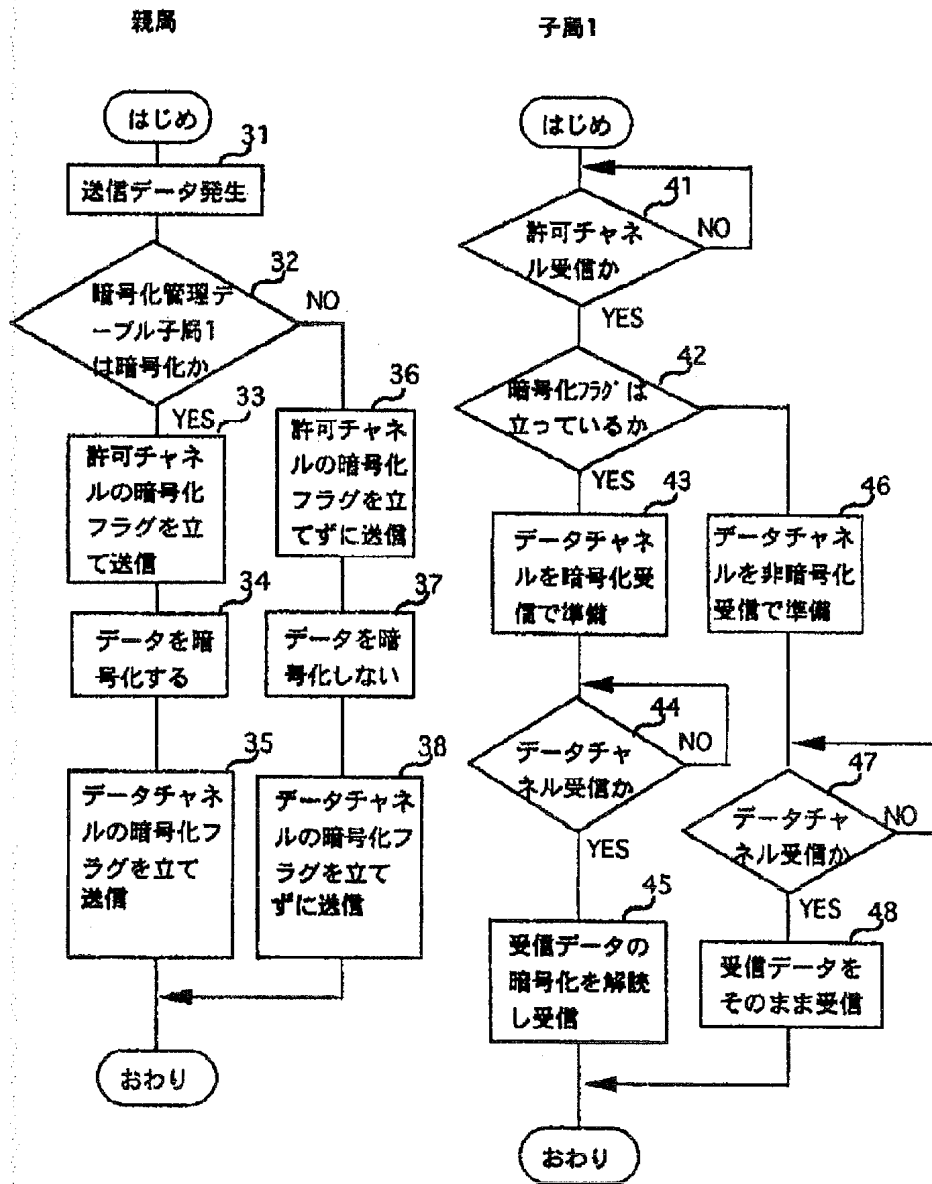


【図4】



子局から親局へのデータ送信時の制御フロー

【図5】



フロントページの続き

(72) 発明者 沖野 恵美  
東京都中野区東中野三丁目14番20号 国際  
電気株式会社内  
(72) 発明者 三浦 俊二  
東京都新宿区西新宿三丁目19番2号 日本  
電信電話株式会社内

(72) 発明者 鈴木 芳文  
東京都新宿区西新宿三丁目19番2号 日本  
電信電話株式会社内

Fターム(参考) 5B089 GA21 GA31 GB01 HA06 HA11  
KA05 KA17 KB13 KC15 KC22  
KC37 KH30  
5J104 AA01 PA01  
5K033 AA02 AA08 CB01 DA01 DA17  
DB10 DB12 DB14  
5K067 AA30 AA35 BB21 EE22 EE42  
HH36 KK13